

天然記念物 斎宮のハナショウブ^{ぐんらく}群落

笹苗川の流域にはかつて湿地が広がっており、菖蒲の原種であるノハナショウブの群落がありました。川や田んぼの形が変わり、現在は湿地が少なくなりましたが、斎宮にあるこの場所は今でもノハナショウブの群落が残されています。ノハナショウブ群生地は山中の湿地が多く、平地での群落は希少なことから昭和11年(1936)に国の天然記念物に指定されました。例年、5月末頃から6月初め頃に開花し、斎王まつりの時期に満開となります。群落にはノカンゾウ、ナガボノワレモコウなどの希少な植物も残されています。

ノハナショウブのことを地元の人は「どんど花」と呼んでいます。この明和の方言である「どんど花」の語源には2説あります。

- 用水路から水田に水を入れる取り入れ口に由来。
どんどん水が流れる様から「どんど花」と呼んだ。
- ノハナショウブの群生が、どんと沢山咲く様から。



ノハナショウブ



ノカンゾウ



指定時

キーワード：ノハナショウブ、どんど花、天然記念物